

## 第12回「中高年者縦断調査（中高年者の生活に関する継続調査）」のポイント

平成29年11月に厚生労働省は、同じ集団を対象に毎年実施している「中高年者縦断調査（中高年者の生活に関する継続調査）」の第12回（平成28年）結果を公表しました。調査結果のポイントを紹介します。

### 1. 調査の概要

中高年者縦断調査は、平成17年10月末に50～59歳であった全国の中高年者世代の男女に対して、家族の状況、健康の状況、就業の状況などを継続的に調査し、高齢者対策などの厚生労働行政施策のための基礎資料を得ることを目的としている。

第12回調査では、平成17年度の第1回調査から協力が得られた19,513人について集計しており、調査対象者の年齢は、61～70歳となっている。

### 2. 世帯の状況

第1回調査から第12回調査までの11年間の世帯構成の変化をみると、「夫婦のみの世帯」は、第1回21.4%から第12回41.2%と増加している。一方、「三世帯世帯」は第1回22.3%から第12回13.6%、「親なし子ありの世帯」は、第1回39.2%から第12回26.3%と減少している。

第1回の世帯構成別に第12回の世帯構成をみると、「夫婦のみの世帯」に変化した割合は、「親なし子ありの世帯」の39.9%、「親あり子なしの世帯」の32.9%で高くなっている（図表不掲載）。

### 3. 健康の状況

第1回調査から健康状態の変化が「第1回からずっと「よい」

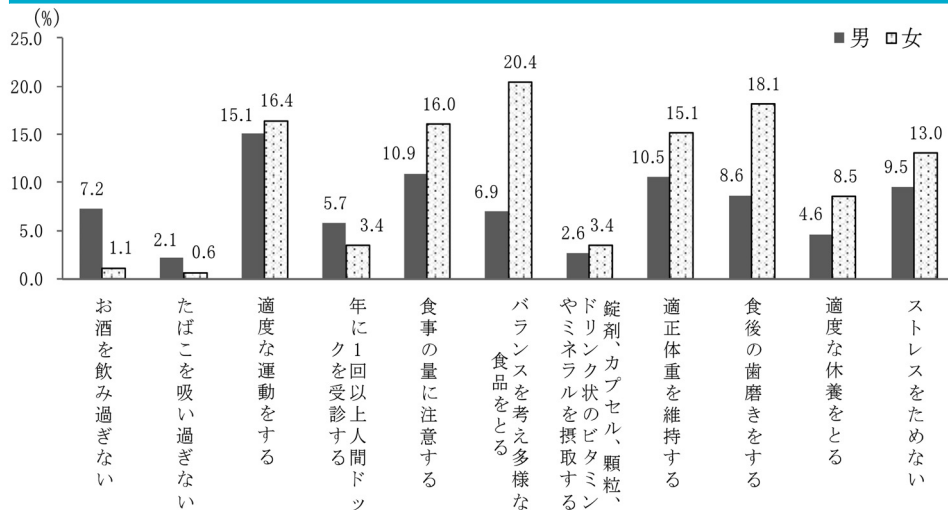
割合を性別でみると、男性45.4%、女性46.6%となっている。それを第1回調査から継続して健康維持のために心がけていること別にみると、男性は「適度な運動をする」が15.1%、「食事の量に注意する」が10.9%、「適正体重を維持する」が10.5%となっている。女性は、「バランスを考え多様な食品をとる」が20.4%、「食後の歯磨きをする」が18.1%、「適度な運動をする」が16.4%となっている。

また、性別の割合の差をみると、「バランスを考え多様な食品をとる」、「食後の歯磨きをする」で差が大きくなっており、女性の方が高くなっている（図表1）。

### 4. これからの生活設計

第12回調査時のこれからの仕事の希望をみると、「仕事をしたい」は「62～64歳の仕事」では63.3%、「65～69歳の仕事」では39.2%、「70歳

図表1 性別にみた第1回調査から健康状態の変化がずっと「よい」者の第1回調査から継続して健康維持のために心がけていることの割合（複数回答）



以降の仕事」では18.1%となっている（図表不掲載）。

また、「仕事をしたい」者が希望している仕事のかたちは、「62～64歳の仕事」、「65～69歳の仕事」、「70歳以降の仕事」のどの年齢でも、「雇われて働く（パートタイム）」が23.1%、15.6%、5.8%と最も多く、次いで「62～64歳の仕事」では「フルタイム」が19.4%、「65～69歳の仕事」、「70歳以降の仕事」では「自営業主」が8.7%、4.9%となっている（図表不掲載）。

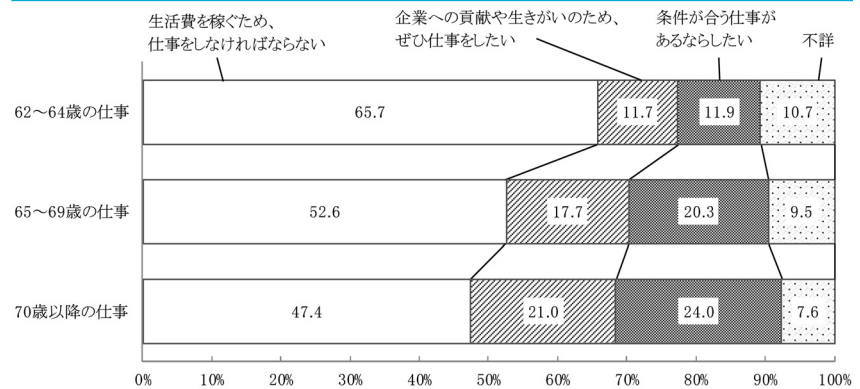
「仕事をしたい」と希望している者の「仕事をしたい理由」をみると、「生活費を稼ぐため仕事をしなければならない」は、年齢が高くなるほど割合は低くなっていく。一方、「企業への貢献や生きがいのため、ぜひ仕事をしたい」、「条件が合う仕事があるならしたい」は、年齢が高くなるほど割合は高くなっている（図表2）。

## 5. 社会参加活動の状況

第12回調査の社会参加活動別に「活動あり」の割合をみると、男女とも、「趣味・教養」、「スポーツ・健康」、「地域行事」では高くなっており、「子育て支援・教育・文化」、「高齢者支援」では低くなっている。このうち、「活動あり」の割合が高い「趣味・教養」、「スポーツ・健康」、「地域行事」について年齢階級別にみると、男女とも、「趣味・教養」では差はみられないが、「スポーツ・健康」、「地域行事」では年齢が高くなるほど「活動あり」の割合が高い傾向となっている。

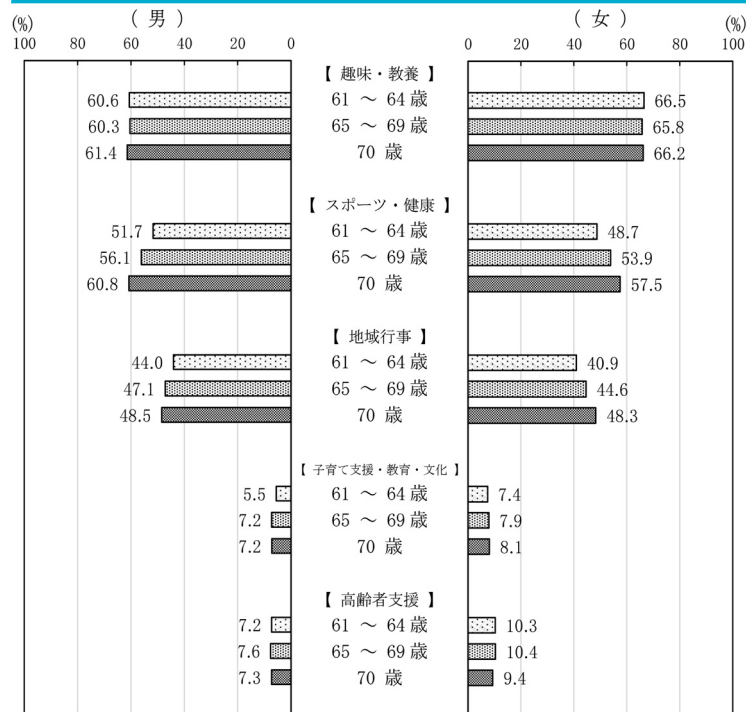
また、社会参加活動が「活動あり」の割合を性別にみると、どの年齢階級でも「趣味・教養」、「子育て支援・教育・文化」、「高齢者支援」は、

図表2 「仕事をしたい」と希望している者の「仕事をしたい理由」



注: 1) これからの仕事の希望で、「仕事をしたい」者について集計。  
2) 「62～64歳の仕事」は第12回で「61～63歳」の者を、「65～69歳の仕事」は第12回で「61～68歳」の者を、「70歳以降の仕事」は第12回で「61～70歳」の者を集計。

図表3 年齢階級別にみた社会参加活動が「活動あり」の割合



注: 第12回の年齢階級ごとの総数を100とした割合である。

女性が男性より、「スポーツ・健康」、「地域行事」では、男性が女性より高い傾向となっている（図表3）。

年々、少子高齢化が進む中で、「夫婦のみの世帯」が増加しています。また、食事、運動などにも注意を払い健康維持に努めている状況がうかがえます。今後さらに、高齢者が生きがいを持って生活し、社会に参加していくことが望まれます。

（中井正人）